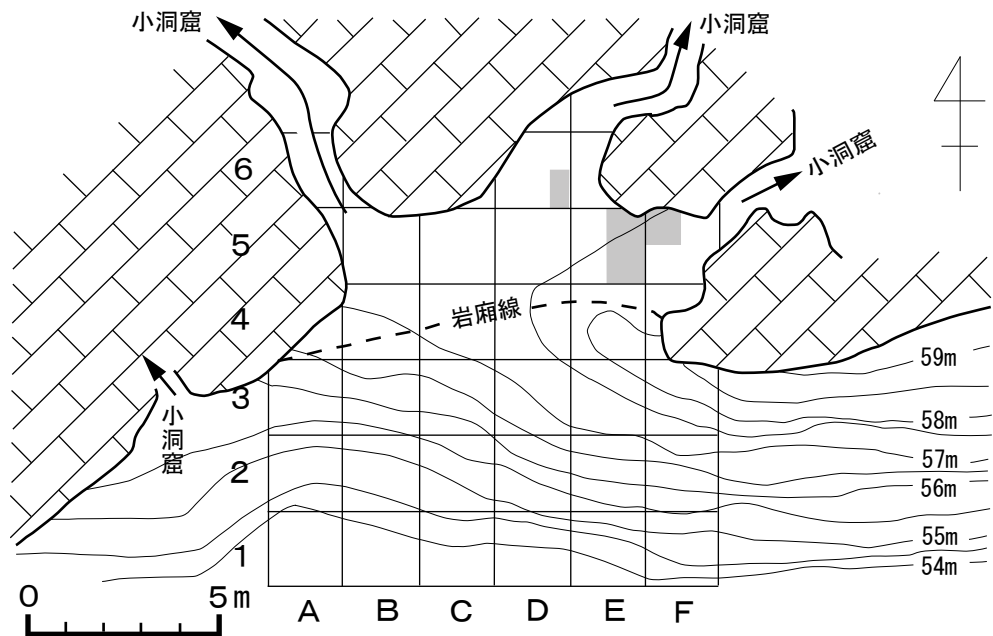




2013 年度 帝釈峡遺跡群発掘調査 I 期 (8 月 3 ~ 10 日)

帝釈大風呂洞窟遺跡 (第 18 次) の調査

帝釈大風呂洞窟遺跡は広島県神石郡神石高原町永野字大風呂に所在し、帝釈観音堂洞窟遺跡の直上約 50m の急斜面に立地しています。洞窟は南に向けて開口し日当たりは良好で、規模は間口幅約 11m、奥行約 4m、岩廂 (いわびさし) までの高さ 3.0m ~ 3.5m、面積は約 40 m<sup>2</sup> となっています。また、洞窟内には小洞が 3 穴あって、さらに北側に伸びています。



第 1 図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図  
(網掛けは今期の調査範囲)

本遺跡は1984年に発見され、1996年から調査が開始されています。これまでに17回の調査が行われており、今年で18回目の調査となります。第1次から第7次調査の間に、遺跡西半の調査を行い、本遺跡における基本層序・利用時期（縄文時代草創期もしくは早期以降、早期～後期、古代、中世）がほぼ明らかとなりました。第8次調査以降は、遺跡東半を中心に調査を行っています。

昨年度は、D-4区の第5層（縄文時代草創期・早期～縄文時前期の層）・D-5区の第3層（縄文時代前期～後期の層）・D-6区の1・2層（古代・中世の層）の調査を行いました。そして、D-5区より新たに2つの焼土面（火処）が見つかりました。また、そのすぐに南に隣接したあたりから、縄文時代の人々の食事行為の痕跡を示すマシジミが31個体と石鏃の製作過程を窺わせる資料が発見され、この場所が生活の中心部ではないかと注目されました。

今年度の調査ではE-5区・F-5区西半第3層の調査を行い、昨年度に引き続き東半5区列が、どのような遺物・遺構分布状況なのか明らかにする予定です。また、D-6区についても引き続き調査を行い洞奥における遺物・遺構分布状況を把握します。そして今年度の調査によって、第3層



写真1 発掘調査風景

における遺跡全体での空間利用を明らかにする予定です。また、以前の調査で第3層より、貝輪や貝製垂飾品が出土し埋葬に伴う可能性もあることから、埋葬遺構の発見も期待されます。

第Ⅰ期の調査前半は雨日が多く、作業が思うように進みませんでした。調査後半は皆の頑張りにより遅れを取り戻すことができました。成果としてE-5区東半において新たな焼土面を検出することができ、生活の中心の場が遺跡の東側5区列全体に広がる可能性が出てきました。今期の調査はこれで終了ですが、Ⅱ期、Ⅲ期にも引き続き調査を行いますので、今後の成果にご期待ください。また、8月29日には本遺跡にて現地説明会を行う予定ですので、お誘い合わせのうえ、是非お越しください。（北之園直哉）

### コラム1『はじめての発掘調査』

今年の四月に考古学研究室に配属され、遺物や遺跡の年代を決める方法などの考古学の基本的なことに関する本を読んだり、実際に使用するレベルやトランシットといった道具の練習をしたり、調査対象である大風呂洞窟遺跡について調べるなど、今回の発掘調査に向けて様々な準備をしてきました。

しかしいざ発掘調査に取り組んでみると、発掘調査をする前に行わなければならない遺跡の掃除や遺跡までの道づくりでかなりの体力が必要だったり、資料等から自分がイメージしていたのとは規模や周囲の環境が全く異なっていたりと、予想もしなかったことに驚くことがほとんどでした。

今年の調査では、今まで長年使用してきた旧調査室から最近完成したばかりの新調査室への移行があったり、例年は2つの遺跡を調査するのに対し今年は1つだけです。しかも今年はその調査の一時終了に向け作業内容が少し変わっていたりと、例年よりも多少異なる部分があるようですが、発掘調査における基本的なことなどは変わらないので先輩方のご指導の下、机に向かっていただけでは得ることのできない知識や技術を身につけていきたいと思えます。 (2年 香坂 亮)

### コラム2『初めて発掘調査に参加して』

今回、初めて発掘調査へ参加させてもらって色々と貴重な体験をさせていただきました。六月から勉強会の資料を作るなど、この発掘調査のための準備をしてきたのでこの調査はとても楽しみにしていました。今年度は以前から使用していた旧調査室を離れて新しい調査室を使わせていただけるということで、恵まれた環境の中でより一層集中して調査に臨めることを幸運に思いながら調査を行わせていただきました。調査の序盤は雨が降っていた関係で小屋や階段作りが進まず苦労しましたが、その後、無事に調査を行うことができよかったです。遺跡が自分の想像していた場所より遥かに急な山道にあったのには驚きました。まず遺跡の清掃からはじめましたが、思った以上に落ち葉などが多くて時間がかかり苦労しました。本格的に掘り始めて、自分一人で一つの担当区を決めてやっていくというのも初めて知って、頑張っていこうと思いました。残念ながら自分が担当した場所からはなにも出土していませんが、これから何か出てくれるとうれしいです。 (2年 向井涼平)

## 人物往来

8月8日 神石高原町内各中学校社会科担当の先生方5名（発掘体験）

## 参加者名簿（Ⅰ期 8月3日～8月10日）

広島大学大学院文学研究科	教授	古瀬清秀
同上	准教授	竹広文明
同上	大学院生	市川伯博 藤井翔平 森本直人
広島大学文学部生	(3回生)	浅井美雪 大嶋健介 金森大輝 北之園直哉 古久保茜
	(2回生)	池西美咲 貝原賢哉 香坂 亮 福地祥平 福元隆希 向井涼平

## 陣中見舞い（50音順）

赤木弘史様：飲み物 大森ゆかり様：野菜、米 大村愛海様：ビール 中島由美子様：お菓子、飲み物 長井健二様：お米 弥生食堂様：果物

## 編集後記

本年度も、帝釈峡遺跡群の調査が始まりました。広島大学による帝釈峡遺跡群の発掘調査は一昨年で50周年を迎え、宿舎も新しくなり、ここ最近いろいろな意味での契機を迎えております。この年に、これまで18年間にわたり継続して行われてきた帝釈大風呂洞窟遺跡の発掘調査も一つの節目を迎えようとしています。最初に大風呂遺跡に鍬を入れた先輩方は、もう我々と同世代のお子様がいいらしてもおかしくないお年で、それほど歴史、積み重ねを思うと多少のプレッシャーを感じざるを得ない所存です。しかし、大風呂遺跡にはまだまだ多くの解明すべき課題が残されています。Ⅰ期の調査は終了しましたが、今後Ⅱ期、Ⅲ期と奮闘していきたい所存ですので、今後の成果にご期待下さい。本年度も、よろしくお願い致します。 (編集 藤井)

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3  
(tel:0824-24-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒729-5254 庄原市東城町帝釈未渡1903 広島大学帝釈峡野外実習施設 (tel:08477-6-0101)

研究室ホームページURL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>